

今度はこれがでる！

## 第16回(2014年9月7日)向け建設業経理士1級 財務諸表出題予想

	第1予想	第2予想	第3予想
第1問	理論記述問題 ・キャッシュ・フロー計算書	理論記述問題 ・工事契約会計	理論記述問題 ・リース会計
第2問	空欄補充問題 ・外貨換算会計	空欄補充問題 ・企業会計原則	空欄補充問題 ・資産の評価
第3問	正誤問題 ・固定資産会計 ・純資産会計	正誤問題 ・資産会計 ・損益会計	正誤問題 ・金融商品会計(有価証券、デリバティブ) ・連結会計
第4問	計算問題 ・税効果会計	計算問題 ・連結会計(資本連結)	計算問題 ・ジョイントベンチャー(JV)
第5問	総合問題(精算表) <精算表の基本7論点> 有形固定資産(減価償却等)、有価証券(その他有価証券・税効果)、貸倒引当金(差額補充法・税効果)、退職給付引当金、完成工事補償引当金、完成工事高と完成工事原価の算定、法人税等	総合問題(精算表) <精算表の基本7論点> 有形固定資産(減価償却等)、有価証券(その他有価証券・税効果)、貸倒引当金(差額補充法・税効果)、退職給付引当金、完成工事補償引当金、完成工事高と完成工事原価の算定、法人税等	総合問題(精算表) <精算表の基本7論点> 有形固定資産(減価償却等)、有価証券(その他有価証券・税効果)、貸倒引当金(差額補充法・税効果)、退職給付引当金、完成工事補償引当金、完成工事高と完成工事原価の算定、法人税等

なぜ、こう予想した？

**第1問**では**理論記述問題**が出題されます。過去に出題されたときから、しばらく時間が経ったものが再度出題される可能性を鑑み、第1予想はキャッシュ・フロー計算書(第3回に出題)、第2予想に工事契約会計(第6回に出題)、第3予想にリース会計(第4回に出題)を挙げました。近年発刊されている過去問題集に記載がないかもしれませんが、出題される内容は極めて基礎的である可能性が高いので、基本となる用語やその定義を正しく理解し、文章に含められるようにしましょう。また、計算や仕訳との関連性も意識することが大切になります。

**第2問**では**空欄補充問題**が出題されます。記号による空欄補充問題は、出題者としておそらく最も体系的な理解度を問いやしい問題出ではないかと思えます(論述問題では、「分からないから」と白紙にされやすい可能性がある)。そのため、ある内容に関して横断的な知識や考え方を、文章の穴埋めという形で問うことを考えたときに、「外貨換算会計」や「企業会計原則」、「資産の評価」といった内容が問いやしいのではないかと予想に挙げました。こちらも、やはり正しい用語の理解と計算や仕訳との関連性を意識することが、マスターへの近道となります。

**第3問**は**正誤問題**が9問程度出題されています。さまざまな論点から出題されていますので予想は絞りにくいですが、基本的な知識を整理しておけば正解しやすいといえます。繰り返しでしつこいかもしれませんが、計算の知識とリンクさせながら、各会計基準に関する基礎的な知識を整理しておきましょう。具体的な論点としては、「固定資産」、「純資産」、「資産会計や損益会計の基礎」、「金融商品会計」あたりが要注意です。

**第4問**は**計算問題**が通常、1問出題されます。こちらも、連続して出題されるケースは稀で、基本的には数回分空けての出題となることから、その観点で予想を挙げました。第1予想の「税効果会計」は第11回、第2予想の「連結会計」は第13回、第3予想の「ジョイントベンチャー」は第10回以降の出題がありません。出題内容はテキストの計算例レベルだと予想されますが、しっかりと押さえておかないと手も足もでませんので、広く浅く計算例を確認しておきましょう。

**第5問**は**総合問題(精算表)**が出題されます。予想に挙げた基本的な7論点を中心に高得点をあげられる様に、十分対策しておきましょう。また、最近の出題として「外貨建金銭債権債務の換算」、「有価証券の評価」、「自己株式」などが出題されていますので注意しましょう。加えて、有形固定資産の減価償却に関しては、減価償却方法の変更や耐用年数の短縮、総合償却と絡めての出題可能性も十分にあります。不安な方は復習しておきましょう。

合格目指して  
ラストスパートだ！

